

2026 年度一般選抜（Ⅰ期・Ⅱ期）出題意図

（北星学園大学）

国 語

〔出題のねらい〕

国語では、大学で勉強するにあたって必要と思われるレベルの文章をとりあげ、その内容を問うことを目的としています。

「内容を読み取る」というのは、①本文中に現れた表現がどのように言い換えられているか、②どのような概念が対比的に用いられているか、③そのような結論に至った根拠は何か、を読み取ることになります。すなわち、ここで求められていることは、「全体を丁寧に読んで考えること」です。例えば、内容に基づいて複数の段落に分けて要約し、それらを繋げたときに本文全体の要約にできるとかなり読めていると言えるでしょう。反対に、本文全体をなんとなく眺め、設問にフィーリングで答えるというような杜撰な読解は求めています。常に自分の出した解答に根拠を持つことを心掛けてください。また、本文にはいくつか難しい表現や言葉が出てくる場合があります。そういった表現や言葉はチェックしておいて、電子辞書や「コトバンク」など信頼のおけるウェブサービスを使って意味を調べる習慣をつけてください。

なお、記述式問題の解答(末尾に【記述解答】が付された設問)では、①字を読みやすく丁寧に書くこと、②指定語句、字数、空欄の前後に合わせるといった設問の条件に従うこと、の2点を心掛けてください。乱雑な文字で書かれた解答や、条件から外れた解答は大きな減点となります。

〔傾 向〕

出題範囲は「現代の国語」、「言語文化(近代以降の文章)」、「論理国語」で、「文学国語」および「国語表現」、「古典研究」は出題されません。現代文でも評論文の内容説明問題が多く出題されています。なお、本文は少し長めなので、解答にあたっては、時間配分にも注意が必要です。

① 出題形式

各日程とも大問2題の出題です。解答形式は、マーク式(末尾に□が付された設問)と記述式(末尾に【記述解答】が付された設問)の併用で、解答については、マーク式は「解答シート」に、記述式は「国語解答用紙」に記入します。試験時間は60分間です。大問ごとの配点は例年、問題一は50点、問題二は50点の計100点満点です。

② 出題内容

内容は語彙、四字熟語、空所補充、指示内容、箇所指摘、内容説明、内容真偽など多岐にわたります。記述式では、10～30字程度の字数制限がつきます。近年は、説明文の空所を15字前後で埋める形式のものや、本文中から抜き出す形式のものがあります。マーク式では、空所補充、内容真偽、語彙などが出題されます。

英 語（文学部英文学科）※Ⅰ期のみ

〔出題のねらい〕

英文学科の問題は、聞く力、読む力、文法の知識、作文など、幅広くバランスのとれた英語力を判定するねらいで構成されています。入学後、ネイティブ・スピーカー中心のカリキュラムの中で、英語のみで行われる講義や洋書テキストを理解するための土台となる“基礎力”がしっかりと身に付いているかを見極めるためです。高校の教科書や文法書を丁寧に復習しておくことが大切です。

〔傾向〕

出題範囲は「英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ・Ⅲ」、「論理・表現Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ(リスニングを含む)」です。

① 出題形式

大問5題の出題です。解答形式は、マーク式(末尾に○が付された設問)と記述式(末尾に【記述解答】が付された設問)の併用で、解答は、マーク式は「解答シート」に、記述式は「英語解答用紙(文学部英文学科)」に記入します。試験時間は90分間です。大問ごとの配点は例年、問題Ⅰは50点、問題Ⅱは32点、問題Ⅲは28点、問題Ⅳは65点、問題Ⅴは25点の計200点満点です。

② 出題内容

問題Ⅰ（リスニング問題）

Part A

男女のネイティブ・スピーカーの会話の内容を問う問題です。特に、“誰が、何処で、何を”の3点をしっかりと聞きとってください。質問文は英語で読み上げられ、問題紙には記載されていません。

Part B

あるトピックに関する比較的長い講義の内容を問う問題です。講義の要点だけでなく、細かい部分までよく理解しましょう。

問題Ⅱ（英問英答問題）

アメリカの現代社会や言語、コミュニケーションについてのエッセイです。問題ⅡはPart AとPart Bがあります。AとBは以下のようなタイプの問題です。

Part A

英文を読んで、各問いの答えとして最も適切なものを、一つ選択するものです。

Part B

英文を読んで、本文の内容から考えて、各問いの空欄を埋めるために最も適切なものを、一つ選択するものです。

問題Ⅲ（英問英答問題）

形式は問題Ⅱと同じですが、内容は短編小説です。

問題Ⅳ

Part A（並び替え問題）

日本文と同じ意味になるように、単語を並び替える問題です。基本的な文法知識と語彙が問われます。

Part B（誤り指摘問題）

()内の文法や語法を、文脈に合うように正しい形に変えて、書く問題です。

Part C（空所補充）

空欄に適切な単語を補充する問題です。

問題 V（テーマ英作文）

与えられたテーマに関して、自分の考えを英語で簡潔に分かりやすく表現する力をみます。また、指定された語数(例年、50語程度)になるべく近づけるように全体をまとめる必要があります。

〔リスニング〕

リスニングテストは、200点中50点の配点で、試験冒頭に20分程度で実施されます。放送内容は実用英語技能検定2級程度とされています。

英 語（文学部心理・応用コミュニケーション学科，経済学部，社会福祉学部，国際学部）

〔出題のねらい〕

高等学校卒業までに到達しうる英語の基礎的な文法力，語彙力，読解力をみることをねらいとしています。文法においては構文の把握と語法の知識が，語彙においては基本的な熟語表現が重要となります。英文読解では関連する単語をキチンと押さえ，文脈の中で正しい意味をつかめるかがポイントとなり，短いものと長文の2題の会話問題と論説文などの3題の読解問題で内容の理解度をみています。特に後半の3題の長文読解問題では，パラグラフごとに区切って英文の概要を捉えるとともに，その内容から話の本筋を推測し，判断する力も求められています。なお，2024年度から【記述解答】の設問はなくなり，全てマーク式の解答となっています。

〔傾 向〕

出題範囲は「英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ・Ⅲ」，「論理・表現Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」です。

① 出題形式（2024年度から全問マーク式に変更）

大問6題の出題です。解答形式は，すべてマーク式（末尾に□が付された設問）です。
試験時間は60分間です。

② 出題内容

問題Ⅰ 文法・語彙の知識をみる問題です。

Part A 英文中の4つの下線部分のうち，文法的な誤用が含まれる下線部を，一つ選ぶ問題です。

Part B 英文中の空欄に入る語（句）として最も適切なものを，一つ選ぶ問題です。

Part C 英文中の下線部に最も近い意味の語（句）を，一つ選ぶ問題です。

問題Ⅱ 短い会話内容の内容理解です。（英問英答）

例）Ken : What are you looking for, Naomi?

Naomi: I guess I need an umbrella.

Q: What does Naomi mean?

- 1 She doesn't agree with his opinion.
- 2 They are at a loss what to do.
- 3 She is interested in climate change.
- 4 It is going to rain later.

問題Ⅲ～Ⅵ 400語程度の会話文での内容理解をみる問題です。（英問英答）

会話文については，『赤本』で確認してください。

日本史探究

〔出題のねらい〕

教科書の記述に基づいた基礎的知識を問う問題です。また、出題の時代は原始・古代から近現代まで、領域は政治・外交、思想・文化を含む総合的な問題となっています。

本学の出題は、あくまでも教科書の記述に基づいた出題ですので、教科書の本文を丹念に読むとともに、ゴシック体(太字)で書いてある歴史用語や図表の説明に特に注意をはらってください。

〔傾 向〕

① 出題形式

大問4～5題の出題です。解答形式は、マーク式(末尾に○が付された設問)と記述式(末尾に【記述解答】が付された設問)の併用で、解答は、マーク式は「解答シート」に、記述式は「日本史解答用紙」に記入します。試験時間は60分間で、100点満点です。

② 出題内容

大問の出題範囲は、時代別では、原始・古代から近現代(戦後)までです。大問2題が近世以降からの出題となっています。

分野別では、政治・社会・経済・外交・文化の分野からバランスよく出題されています。とくに文化史の出題が多くなっています。また、テーマ史・人物史が出題されることがあります。各時代の出題傾向と過去3カ年の出題内容は、次のとおりです。

1) 原始・古代

原始から古代まで幅広く問います。この時代の出題に関しては、3つの出題パターンが中心です。

① 原始・古代における遺跡や文化財などの写真を見て、遺跡名・工芸品名・寺院名・人物名・社会背景等を幅広く問う設問で、各問いの4つの選択肢から答えを1つ選ぶマーク式のもの

② 文章や史料を読んで、各問いの4つの選択肢から答えを1つ選ぶマーク式のもの

③ 原始・古代の生活、文化、政治に関する8つの文章を読んで、正しい文章を4つ選びその番号を記述するもの

この設問の解答のポイントは、一か所でも“誤り”を見つけた段階で、この文章は正しくない(誤り)と判断し、次の文章を読むようにするとよいでしょう。

2) 中世

出題傾向としては、史料または文章を読んで、空欄補充、下線部に関連するもの等について、各問いの4つの選択肢から答えを1つ選ぶマーク式と記述式の問題が混在しています。

3) 近世・近代

出題傾向としては、中世と同じです。

4) 近代・現代

出題傾向としては、中世と同じですが、年によっては、AからJの文章がそれぞれ正しいか誤っているかをマーク式で問うものもあります(正誤判定)。

世界史探究

〔出題のねらい〕

本科目は、時代だけではなく地域的に拡範であることを踏まえて、教科書に記載されている事項（『用語集』赤字）を中心とする知識についても問題になっています。

〔傾 向〕

① 出題形式

大問4題の出題です。解答形式は、マーク式(末尾に○が付された設問)と記述式(末尾に【記述解答】が付された設問)の併用で、解答は、マーク式は「解答シート」に、記述式は「世界史解答用紙」に記入します。試験時間は60分間で、100点満点です。

② 出題内容

大問の出題範囲は、原始・古代から近現代(戦後)までです。分野別では、政治・社会・経済・外交・文化の分野から極端な偏りがないように出題されています。例年の出題傾向と過去3カ年の出題内容は、次のとおりです。

マーク式の問題のほとんどが語句を選択させるものですが、正文(誤文)を選択させる設問もあります。選択肢をしっかりと確認して解答するようにしてください。

地域別では、欧米地域とアジア地域からバランスに考慮して出題されます。欧米地域では、西ヨーロッパとロシア、アメリカからの出題が多くなっています。アジア地域については、中国史が多く、東南アジアなどからも出題されます。また、一国史が出題される傾向にあります。

分野別では、政治・外交史が中心ですが、文化史・東西交渉史からも出題されることがあります。

問題Ⅰ

「古代」を中心に出题されます。出題形式は、文章を読んで、後の問いに答える出題で、空欄補充、下線部に関連するもの等について、各問いの4～6つの選択肢から答えを1つ選ぶマーク式と記述式の問題が混在しています。

最近では、地図上で都市の位置を問うものや、写真の建築物等の名称を問うものが出題されています。

問題Ⅱ

「アジア地域」を中心に出题されます。出題形式は、問題Ⅰと同じです。なお、アジアの国々については、その国の“旧宗主国”を把握しておくことも大切です。

問題Ⅲ

「中世・近世」を中心に出题されます。出題形式は、問題Ⅰと同じです。

問題Ⅳ

「近代・現代」を中心に出题されます。出題形式は、問題Ⅰと同じです。

地理探究

〔出題のねらい〕

地理探究の教科書の記述に基づいた基礎的知識を問う問題です。教科書に沿って、「さまざまな地図と地理的技能」「現代世界の系統地理的考察」「現代世界の地誌的考察」の分野をバランスよく出題しています。また、写真や統計表を活用した設問が多く、観察力と分析力を問う出題が多くなっています。

〔傾 向〕

① 出題形式

大問4題の出題です。解答形式は、マーク式(末尾に○が付された設問)と記述式(末尾に【記述解答】が付された設問)の併用で、解答は、マーク式は「解答シート」に、記述式は「地理解答用紙」に記入します。試験時間は60分間で、100点満点です。

② 出題内容

大問4題のうち、3題は系統的地理や世界地誌の分野、もう1題が地域調査を含む地形図の読解という出題となっています。系統的地理と世界地誌の出題数は年度により異なります。

教科書に準拠した基本事項が主ですが、時事的な内容が出題されることがあります。また、分布図や統計表、グラフ、写真が多く使用されています。地理的思考力を要する問題もあり、暗記学習だけでは対応が難しくなっています。

■ 系統地理

世界の地形、世界の気候、農業や工業、環境問題などが出題範囲です。ケッペンの気候区分の気候区ごとの特色は、特徴的な雨温図や植生分布と合わせて覚えておくといよいでしょう。環境問題については、日頃から世界各地のニュースや新聞記事に触れ、関心を持つようにしましょう。

また、統計資料に基づく問題はしばしば出題されています。表やグラフを読み取り、情報を整理する力を身につけましょう。

■ 世界地誌

世界11地域(東アジア、東南アジア、南アジア、西アジア・中央アジア、アフリカ、ヨーロッパ、ロシア、アングロアメリカ、ラテンアメリカ、オセアニア、南極・北極)のいずれかが出題されます。

■ 地形図読図

教科書・資料集に掲載されている地形図などを使って出題されます。土地利用の判読では、等高線の疎密や地図記号の分布が重要な手がかりとなります。日頃から地図や地形図に慣れ親しんでおきましょう。

政治・経済

〔出題のねらい〕

政治・経済の教科書の全分野からまんべんなく出題されます。具体的には、政治分野からは日本国憲法と基本的人権に関する問題、日本政治と国際政治に関する問題、経済分野からは、現代経済の仕組みに関する問題、日本経済と世界経済に関する問題がそれぞれ大問一題ずつ出されます。政治・経済の問題は、教科書レベルの基本的な知識が定着しているかを見るための問題です。

〔傾 向〕

① 出題形式

大問 4 題の出題です。解答形式は、マーク式(末尾に○が付された設問)と記述式(末尾に【記述解答】が付された設問)の併用で、解答は、マーク式は「解答シート」に、記述式は「政・経解答用紙」に記入します。試験時間は60分間で、100点満点です。マーク式と記述式の割合は、概ね 6 : 4 となります。

② 出題内容

大問 4 題で、政治分野は「日本国憲法と基本的人権に関する問題」、「日本政治と国際政治に関する問題」の 2 題、経済分野は「現代経済の仕組みに関する問題」、「日本経済と世界経済に関する問題」の 2 題です。

時事問題がリード文の題材になることもあり、かなり具体的で現代的な出題となっています。また、政治分野では用語の暗記よりも、その意味の理解力を求める問題が多く出題されます。経済分野に比べ、政治分野はやや難易度が高くなる傾向があります。

数 学

〔出題のねらい〕

出題範囲は、「数学Ⅰ」と「数学A」で、この範囲内から出題されます。

本学の数学は、大学入学共通テストとは異なり、単に正答を求めるだけでなく、解答のプロセスも重視するために、全問記述式となっています。

〔傾 向〕

① 出題形式

大問4題の出題です。解答形式は、全問記述式で、「数学解答用紙」に解答します。試験時間は60分間で、100点満点です。なお、受験科目登録のため、解答シートにも受験番号・氏名・科目コードを記入して、解答用紙とともに提出します。

② 出題内容

出題の範囲は、まんべんなく出題されています。また、証明問題も出題されています。

数と式、集合と命題、2次関数、図形と計量、確率、場合の数、データ分析が、これまでに
出題された範囲です。

平易～標準レベルで、確実な計算能力が求められる問題が多くなっています。解答のプロセスも丁寧に記入することが求められています。証明問題は教科書程度です。

なお、教科書の「発展」に類する問題は、昨今は出題されていません。